

れたのは、讚美歌といふもの、性質から見ても御宥恕を願ひたうございます。前申します如く、私がバプテスマを受けました頃は、出席する教會によつて、歌が違つてゐるので、異様におぼえました。私は讚美歌が一つになるといふのが、何より嬉しくて、時にどつて出来るだけの事をいたしました。その後また自然の勢として、いろいろ歌集も出来てゆくやうです。讚美歌界の一轉機を見るのも、さう遠い將來でないかも知れません。いづれにしても、たゞへの聲の高くあがれかしと祈るほかありません。

### 讚美歌小史

文中に「さ」さあるは「さんびか」の略、その他「さ、——」さあるは、さんびか第一編の號なり

#### 別所梅之助

喜びに悲みに、神を頌へ、神に歌ふは、いづれの國人も同じ事なりかし。まづ讚美歌の源たるヘブルの詩歌より、つぎくにかいま見ん。

#### 一 ヘブルの詩歌

かの舊約聖書は三十九卷あるが、その中六卷は、全篇これ詩なり。即ち抒情詩には、雅歌、哀歌、及び詩篇あり。智慧の書と唱へらるるものには、箴言、ヨブ記、傳道の書あり。而して經典にもれたるものにシラクの書あり。その散佚して今に傳はらざるヤウエーの戦の記（民數紀略廿一章十四）、さてはヤシヤルの書（ヨシユア記十章十三）の如きも、歌謡なりといふにあらすや。もしそれ記、紀の古史に、萬葉以前の歌をさぐるが如き勞を厭はずば、舊約書中隨所に斷篇を見いだしたからず。アロンに對する祝福（民數紀略七章廿四—廿六）、契約の櫃を進むる歌（同十章三十五）をはじめとして、デボラの歌（士師記五章）のごとき民謡あり、全篇を收めて極めて貴し。出埃及記十五章のモーセの歌は、さんびかの祖のこ



さく見ゆれど、同廿一章廿一節のミリアムの歌を詩篇時代にいたりて敷衍せるものと信ぜらる。こはなほ古事記なる「八千矛の神の命は」の長歌が、その時代の作ならじと、ある人々に思はるゝ類ならん。ダビデの唱歌隊は、隊員千を以て數へられしと。歴代志略上卷十五、十六の二章を見よ。聲樂あり、器樂あり。瑟ありて細き音をいだし、琴ありて太き音をいだし、銅の鏡鉞ありてうちはやす。その他、角あり、喇叭あり、そらるにわが雅樂の音をおもはしむ。古の伶人は、自ら歌をつくりしものなり。而して詩篇の中の數篇は、正しくこれらの樂人の手になりしなるべし。後年バビロンにさらはれゆきし時も、ヘブル人の歌、妙なりとの事は、かまびすしかりけん。

我らバビロンの河のほとりにすわり、シオンをもちひいて涙を流しぬ。われらそのあたりの柳に、わが琴をかけたなり。そは我らを虜にせしもの、我らに歌をもさめたり。我らを苦しむるもの、われらにものを歡ばせんとして、シオンの歌一つうたへさいへり。われら外邦にありて、いかでエホバのうたを歌はんや。(詩百三十七篇)

云々の一首、今なほ讀むものをして、亡國の民のあはれをしめしむ。

ヨブ記その他は、やゝ類を異にせるを以て、こゝには置かず。詩篇は實にヘブルの聖歌の最高峯なり。たゞし群山ありて峻嶺もまた存するなり。而して後の讚美歌といふものゝ、詩篇の感化をうけしこゝの頗る大なるも、世人の知る所なり。

新約に入りては、ルカ福音書、詩を含むこと最も多し。マリアの歌(一章四十六―五十五)は、サムエル前書二章のハンナの歌によりしものにして、わがさんびが四百七十一に收めらる。ザカリヤの歌(一章六十八―七十九、さんびが四百七十)、天軍の歌(二章十四、さんびが四百六十九の前半)、シメオンの歌(二章廿九―三十二、さんびが四百七十九)のたぐひ皆これなり。その他「我靈をもて頌はん、我心をもて頌はん」(コリント前書十四章十五)といひ、「互に詩を歌さ靈に感じて作れる賦をもて語りあひ、又うたひて爾らの心に主を讚美すべし」(エペソ書五章十九)といふがことき、さてはコロサイ書(三章十六)、ヤコブ書(五章十三)等に散見せる所によるも、さんびが歌ふ事の普かりしは、推し量らるべし。この「いねたる者よ、目を醒し、死より起きよ、キリスト爾を照さん」(エペソ書五章十四)の警句は、バプテスマをうくる時の歌なりと稱せらる。黙示録には頌(ドキソロソ)きはめで多し。四、五、七、十一、十二、十五、十九の各章皆之を含む。

## 二 東方教會の讚美歌

東方にては歌の禮拜に用ゐらるゝ事、早くよりなりけり。多少の異論もあれど Therapeutae といふアレキサンドリア近邊のもの、はじめて該教會の讚美歌をつくりしといはる。右の歌は樂人みづから大部をうたひ、さて終りの節が、をりかへしなごにいたれば、男も女も異口同音にさなへたるものなりとす。二世紀の頃には「朝の歌」といふあり、わがさんびが四百六十九の原歌なり。現今讚美歌中に收めらるゝ讚美は、Gloria Patri 以下大方いさ早きころの歌なり。コンスタンチン帝改宗以後のさんびがは、神學問題と關する所甚だ深し。ノスチック派にマルテネスといふ人あり、その子と共に讚美歌をもつて聲望ありき。四世紀にはエフレイム・サイラスあらはれ、幾多の歌を詠じ、正統教理をさなへ、以てノスチック派に當れり。この人のニカヤの會議に列したるは、わづかに十八歳のころなりしといふ。次いで出でたるを、コンスタンチノーブルの監督グレゴリー・ナジアンツンとす。その人の事蹟は、教會史をよむ者のよく知る所なり。かのアリアン教徒また特殊の歌を有し、迫害を受けつゝコンスタンチノーブルの公堂の支關先などに會して、終夜その歌をうたひしといふ。



五世紀のなほりにいたりてローマネスといふ人出でたり。その事蹟つまびらかならねど、讃美歌作者として、東方教會の随一人なるに似たり。六世紀及び七世紀の作みなこの人の流れを汲みしものと稱せらる。傳ふる所によれば、ローマネス一流の作は、後世の作に比して頗る戯曲的なり。而して恐らくは、わが神樂のごとく戯曲風の手ぶりをそへて歌ひたるものならんか。傳へきくローマネスのクリスマスの歌は廿五の長々しき節よりなり、まづ降誕の事、怪異の事あり、聖母、ヨセフなどの問答あり、博士きたりて東方の風教の事どもより、さて思ひたつ旅衣、つゆけき、つらき道中の難儀をかされて到着したる由のべて、貢物を獻ぐれば、聖母は博士に御子を拜ましめ、ユダヤの歴史をかつたり、つひに世の救はるゝをいひのるさいふほどの荒筋なりとや。

この風八世紀以後にいたりて一變せり。肖像問題 Icons が元因たり。これよりして讃美歌の畫けることき狀は薄れゆきて、神學思想の影響をうくるにいたりぬ。歌人中には哲學者レオニオと呼ばれたる帝その子コンスタンチン・ホルヒニシニタスなどあり。而してこの派の歌人中別けて勝れたるを、セオドル、シヨセフ、コスマス、及びシヨンの四名とす。「さんびが」第九十四の「つかれたるものよ、さくきたり」といふは、この派のステヘンといふ人の作に基きしものにして、ひろく世に行はる。わが國の正教會を呼ぶもの即ちこの東方教會なり。

### 三 西方教會の讚美歌

由來さんびがは東に盛んにして、西に振はざりき。之を西方に移しうゑたるを、ヒラリー、アンブロースの二星とす。三百五十六年ヒラリー、ボイチアルの教區より追はれて、小アジアに在る事四年、以て東方教會當時の音樂に通するを得たり。ヒラリー、アリアン派の譜なる調にならひて、正統派の思想を讃美

歌にうつすもの數篇、後世の人これを西方讚美歌の始祖とす。

アンブロースにつきては、その徒弟たりしアウガスチンのしたゝめたるものあり。之によれば當時ザレンチニアン帝の母にザヤスチナといふ婦人あり、アリアスの説を喜びて、アンブロースの之に同ぜざるをにくみ、之をミランより動かさんとしき。アンブロースに歸依するもの、その師を保護せんとして、甚だつとめつ。アウガスチンの母またその一人なりき。これらの人々、つとめに疲れて元氣を喪はんことをおそれて、東方教會にてなすことと、さんびが又は詩篇をさなへはじめたり。これらの歌の美はしさに、アウガスチン自らも涙を催したりとなり。定かならぬことながら Te Deum (さんびが、第四百五十九) は、かゝる時期に際して、アンブロースのつくりしものにて、アウガスチンはそのを改心したりとの説あり、またこれはギリシヤ語の歌よりいでものともいふ。これよりして六世紀、即ち大法王グレゴリーの時までのラテン讚美歌をアンブロース流といふなり。

グレゴリーの作數篇今尙新教國にも行はる。この人よりのちをグレゴリー流といふ。中世紀の趣味をおびたり。そのころのにて名歌として傳へらるゝものまた少からず。「あめなるほのほのみたまよくたりて」(さ、四百六) まで、教師の按手禮、宗教の大會、國王の即位式など、重々しき時に必ず用ゐらるゝものは、その一例なり。たゞし之をシャールマン大帝の作といふは當らず、シャールマンの孫チャーレス・セ・ホルドの作といふ方や、信すべし。九世紀のなほりより十世紀のはじめにかけて、ノットカーといふ僧ありけり、Sequences までミーターに、はらぬ調をさなへて、ラテンのさんびがに新なる境を拓きたり。その作「さかりの時にも人は逝けば」といふは、軍歌などにも用ゐられて名高く、ルーテルの葬儀のなにも歌はれぬ。

されどラテンの讚美歌中最もすぐれたるものは、Dies Irae「みよりの日や、あそろしの日や」なるべ



し。アシシのフランシスの友なるセラノのトマストマスの作にして、十九節の長篇なり。これグラッドストーンが近代の聖歌には絶えてかゝる森嚴なるものなしといひしものにして、ゲーテのファストにも、スコットのセ、レー、オヴ、セ、ラスト、ミンステルにも引用せられたり。英語の譯百六十種、獨逸語の譯九十種ほどもありき。之をならび稱せらるゝは、ベネジクトのシャユアの Statut Mater「十字架のみもとにかなしめる御母の」といふ作なり。十字架のみに泣き洗めるマリアを畫けるさま、情をいたましむ。Die Trae をよむものは己を責むべく、Statut Mater をよむものは自ら泣かん。一はおそろしく、一はかなし。一はつよく、一はやさし。このマリアをうつせるものまた十節の長篇なり。

「シオンよ聲たかくすくひぬしエスを」(さ、百四十)といふトマス・アケイナスの作、「またましらたまこがれひかる」(さ、三百四十一)といふクラニーのベルナルドの作など、また中世の歌にてきこえたるものなり。總じて中世紀に十二世紀の聖歌は、靜思的なり、神學的なり、かつ教訓的なり。神さイエスに對して、人に對するがこき温かき愛情をさげたる讚美歌をよみはじめたるものを、クレールポールのベルナルドとす。「心におもふさへたのしき主の、御顔仰ぎみばいかにあるらん」(さ、三百二)の如き、もこ五十節の長篇の一部を譯出したるに過ぎざれど、またこの人特有の温情あり。この點において、のちのギヨソ夫人、監督ケン、ツンゼンドルフ伯、F・W・フェマーなどいづれもその一味といふべし。而して婦人の作者は、大方かゝる傾向を有するに似たり。

すてにして文藝の復興あり、その影響よりして、ロマにても法王レオ十世の時、讚美歌集を改訂すべしとの命あり、千五百廿三年にいたりて業なりぬ。ついで公會曆の改正あり、千六百三十一年になりぬ。中世のさんびが大方この改正曆中より省かれ、新時代の歌加はりぬ。たゞしグレゴリー以前の歌は、あまり除かれざりしが、手きびしく訂正せられたり。フランシス・ザヴィエの「主なるみかみよ、齋きまつる

は「さ、二百九十)といふは、調よろしからざるよしながら、そのまゝ集中にさりもちぬれぬ。

フランスにても讚美歌集の改正しばしばありき。第一回の改正は誤謬を正したるに止まりしが、第二回にはクロード・サンテルサンテルといふ人、事にあたり、その兄弟ジョン・バプテスト・サンテルサンテルといふ僧の助力によりて大に面目をあらためたり。さらに千七百三十五年チャールス・コフィンが第三回の改訂をなすにあたりては、古き歌の除かれて新しき歌の加へられしもの甚だ多し。即ち十六世紀以前のうたは、わづかに廿餘篇に止まるに、ジョン・バプテスト・サンテルのさチャールス・コフィンのさはいづれも八十餘篇に上れりき。當年の意氣想ふべし。されど佛國にても、後には、ロマの公會曆を用ゆるやうになりぬ。天主公會の性質として、國立のものならで、全公會共通のを用ゐるにいたりしこと、また已むを得ぬ次第なるべし。

#### 四 獨逸の讚美歌

獨逸は古より音楽のさかんなる處なり。獨逸人は他人の歌を聴くに甘んぜずしてまた自ら歌ふ。さればいはゆるラテンの讚美歌の中にも、實は獨逸人の筆になりしもの少からず。天主教會にては一般の會衆が歌うたふ事行はれずなりしのも、ドイツにては公拜のなり一同聖歌をさなへき。而してルーテル一度起るに及びて、さんびがは新教會の一大支柱たりき。

千五百廿四年ルーテルはじめて讚美歌集を公けにせり、歌數わづかに八首。されど千五百廿七年の版には六十三首、千五百四十五年の版には百廿五首と、歌も次々に加はりゆきぬ。尤もルーテルの歌として今日に傳はるもの原作廿五首、翻譯十二首ほどのみ。廿餘年間讚美歌に關はりし人としては、歌數きはめて少しさいはざるを得ず。しかも其の作は優れたるものなり。中について傑作を「かみはわが櫛、わがつよ



「楯」(さ、四百三十七)となす。ランケのいはゆるルーテルが仇なす世を奮戦せるをり、亡ぶ可らざる神の御業をなしたるなりと信じて、自ら強うせし作にして、譜もまた彼の作なり。カーライルは之をアルプスの雪崩のおさか、大地震のはじめのひびきかさいひ、ハイネは之を宗教改革のマルセイユの曲となしたり。當時の新教徒を奮起せしめし事いくばくなるか知らず。英語にはカーライルの譯最も力あり、讚美歌としては、アメリカなるユニテリアン協會のヘッヂ博士の譯ひろく用ゐらる。

ルーテルも新教の讚美歌をつくりしものに、ゾライズあり、シヨナスあり、エベルあり、ワルテルあり。おなじルーテル派の作者ながらリングワルド、ヘルムホルト、パパス等の諸家は、その後にははれしものなり。「いまこそこの世をはりなりけれ」(さ、百八) さいふは、名ある歌にて英語より譯出せしなるが、實はリングワルドの作に基きしものなりとす。

「ちひさき群よもそるゝなけれ」(さ、スワイデンの王ガスタバス・アドルフスの作る所、その教誨師なるフワブリシアスの添削を経、アルテンバルクが作曲せしものと稱せらる。これドイツの新教徒に新希望を生ぜしめたるライプチヒの大捷のなり詠みいでしものなり。こゝて千六百三十二年十一月十六日の朝、アドルフス新教の軍を率ゐて、ワレンスタインが將たる舊教軍とルッテンに相對せり。戦まき開かれんとするや、ガスタバス、教師をして祈禱會を催さしめ、自から跪いて熱心にいのり、軍をこそりて此の歌をうたひつ。「イエスよ、今日御名の爲に戦ふ我をたすけたまへ」(さ、彼は進みたり。戦は激しかりき。午前十一時一彈あり、ガスタバスをうちぬ。馬上の英姿はや見るべからず。「わが神、わが神」(さ、彼は今の叫なりき。黄昏ワレンスタインの軍破れさりぬ。アドルフスは死を以て、北歐の宗教上の自由を購ひしなりけり。

ローウエンスタレンの二詩また名あり。千六百三十六年説教者たり、軍人たるマルチン・リンクハルト

「いとやさもに聲うちあげて」(さ、三百七十六)をものしぬ。これドイツの Te Deum まで、國家の大典に用ゐらる。フレデリック大王軍ルーセンに勝つや之を歌ひ、普佛戦争の時もプロシヤ軍はしばしば之をさなへき。グイゼル、ニューマルクらの作また之について名あり。同じ頃の作家ヘルマンは、シレシアの牧師なり。その地の戦亂の甚なりしより生死の間に出入せしこと幾回なるやを知らず、感慨あふれて、聖歌となる。多く祈願の意をこめたり。ヘルマンの主觀的なるに反して、リストあり、その歌は客觀的なり。

十七世紀の後半には、ゲルハルト、フランク、シエツレルの三大家あり。中んづくゲルハルトはルーテル以後の第一人といはる。ゲルハルトの歌は概して長篇なり。その讚美歌となりて存するもの、多くはその節略なりとす。内容は個人の經驗を歌へるものにておほむれ主觀的なり。「主はわが友、われ主のもの、仇は圍むとも、いかでかおそれん」(さ、二百九十三)の歌は、この四十三歳まで寧處する遠なく、四十八歳まで娶らず、めざりし妻はながく病みて死し、五人の子のうち四人まで失ひ、終にルーベンの寂しき寺領に隱遁せし、轉軻不遇の人の作なり。彼の作に多きは我さいふ語なり。我、神と面をあはせて語るなり。「みつひの歌は空をわたり、地にもひやく」(さ、六十二)さいふも、この人のなり。その子の歿かりしをりの「わが子なり、さなり、かくてもなほ我が子なり」の吟もあはれなり。而してフランクとシエツレルとは、共に神の愛をうたひしもの、一種の熱情あり。十七世紀の末に敬虔教徒あらはる。ゲルハルト以下の作を讀まば、かゝる思潮の偶然ならぬを知るべし。この派の人また特殊の歌ありき。シモルクの「てらしたまひれ、ひかりの光よ」(さ、四百三十四)は、その一例なり。テレストレーゲンの作また持てはやさる。

シンゼンドルフは人の知るごとくモラビアン教徒の心髓なり。そのサキソニーより追はるゝや、アメリカにゆきて、ペンシルバニアに留まること數年、感化の地にも残り。作歌およそ二千首、質より量に



おいてまざるこの評もあれど、「なほエスぞみちびきたまふ」といふ一篇のごとき、作者の信念をうかゞふに足らん。シンゼンドルフののち反動をこりて、ゲラルト、クロプストックなどの、やゝ冷静にして教訓的なる歌行はれぬ。

佛國革命の起るや、ドイツの讃美歌またその影響をうけつ。ノグリスミフオークは、新時代を代表せり。之をローマンチック派といふ。情深くして、想像豊富なり。

十九世紀に入りてのドイツの聖歌は、敬虔教徒の歌の復興せしものとみるべし。アルント、アルベニエニなど名あり。さばれ衆望にこにあつきものをスピッタタタナす。この點において彼はゲルハルトの壘を摩すといはる。タムスヒッタの作は讃美歌といはんよりも寧ろ詩なりとの評あり。

### 五 英國及英語の讃美歌

英國もはじめは他の國と同じく、詩篇を歌ふに適はしき様、改作して、禮拜に用ゐたりしなり。ヘンリー八世及びエドワード六世に仕へしトマス・スタンホルドの千五百四十九年に公けにしたるものを、世に詩篇の舊版といふ。すべて三十七篇なり。その後次々に、千五百六十二年には、歌はるゝ様になりたる詩篇の全部、あらはれぬ。この書にはテデアム、主の祈、朝夕の祈なども添へられたりき。

スコットランドにても千五百六十四年、教會の總會にて一定の禮文を編輯する事を定め、大體において以上の詩篇を採用したりき。ジエームス一世の代、右の詩篇を改譯せんとの企あり、千六百三十一年ジエームス王の編輯といふ名義にて世にいでたり。千六百四十二年の「長期國會」にては、更に詩篇の二改訂案を審議する事となり、上院はバートンといふ人の譯をよしとし、下院はロースといふ一議員の譯を可と

し兩々相下らざりき。千六百四十六年國會の請求により、エジンバラの總會にて改訂委員を擧ぐる事となりぬ。委員等苦心年をこえて一新譯を得たり。この譯大體ロースの案に基きしものなり。スコットランドの教會擧りて之を用ゐぬ。

英國にては千六百九十六年、博士ニコラス・ブラッター、欽定詩人ナム・テートの二人、相結びて詩篇の新譯を公けにしたり。この譯、教會に容れられて、盛んに用ゐられぬ。テート、ブラッター合作の歌は、今の讃美歌にもその面影を止めつ。(二百五十其他)。

かく詩篇のみを歌ひをりしにては、會衆の心引立たざりしかといふに然らず。英國の教會は永き間之れを用ゐ、今なほ用ゐるなり。近代の意味にていふ讃美歌は、十六世紀の半頃スコットランドの詩人ウエッダーバーンがルーテルの作數篇を譯したるに始まる。十七世紀の上半期には、ウイザーといふ詩人あり、讃美歌作者として記憶せらる。同世紀の文人にてはミルトン、テラー、ドライデンなど聖歌に筆を染めたり。そのころ即ち十七世紀の半より英語讃美歌は、體をなしたる觀あり。讃美歌史の著者ブリードは、英語の讃美歌を次の三期に分てり。我國の讃美歌と斷ちがたきちなみある讃美歌の事なれば、之に従ひてやゝつまびらかに説かん。

第一期 千六百五十年より千七百八十年まで

第二期 千七百八十年より千八百五十年まで

第三期 千八百五十年より現代にいたる

第一期の歌は教理的にして教訓的なり。第二期のは傳道的なり、福音的なり。第三期のは經驗的にして敬神の念に富む。第一期は國家も教會も俱に多難なりき。三十年戦争の傷いまだ癒えず。ウエストフアアの條約成りてのち二年のみ。佛國にはマザリン政權を執り、英國にはクロムウェル共和政をしけり。チ



チャーレス一世は刎れられぬ。米國の殖民地また多事なりき。英人と蘭人は相争へりき。ニウアムステルダムはニウヨークと變せんすなり。やがてチャーレス二世は英國の王となりき。ロンドンに時疫あり、死するもの數萬、大火あり、全市殆んど焦土となりぬ。オランダとの戦もありき。新教最後の勝利もありき。十八世紀はスペイン國相續の戦はじまりぬ。フレデリック大王の戦も長かりき。やがて佛國革命の大破裂となりぬ。國家かくの如し。教會あに變なきを得んや。宗教上の異見、宗派心の我執は政事上の争論、國民間の紛亂を惹起したり。戦は國家の争にしてまた宗教の争なりき。メソヂストは起らんす。アルメニアンとカルビニストは相うつなり。ヒューム、ホルテール、ギボンの如き人物もあらはれり。「天路歷程」もまた公けにせられたり。かゝる時の讚美歌の、教理的なるも、教訓的なるも自然の勢といふべし。

第一期のはじめにおける高名なる作家を監督ケンとす。この人オックスフォードの出身にしてチャーレス二世の教師たりき。彼は侃々諤々當時の腐敗を責めたりき。マコウレー、ケンを評して「人間の弱點を有するものとしてはキリスト教徒の理想に達せり」といへり。ケンの作多けれど、世に用ゐらるるものは、歌二首、頌一首のみ。而して以上の三首は、殆んどいづれの歌集にも存す。朝の歌(さ、二)、夕の歌(さ、十一)、及び頌(四百六十)、これなり。

アチソンがスチールと共にスペクテーターを發刊せしは、人の知る所なり。アチソンの作にして讚美歌中第一流に位するものを「はてしも知られぬ天つ海原を」(さ、四十二)とす。「かみよみめぐみを思ひみれば」(さ、五十)といふも、この人の作にて「感恩の情」といふ論文にそへしものなり。

英國の獨立教徒にアイザック・ワッツあり。讚美歌界の巨人たり。ワッツ少年のころより宗教上の波瀾の中にたゞよひ、青年の頃にも非國教徒の事にて當時は大學に入るを得ざりき。この人の歌は、いづれの

聖歌集にもすこぶる多し。日本のにも「主のさかえに入りたまひし」(さ、十七)、「わががみ、わがまよみまへにつどひて」(さ、廿) などをはじめとして、第三十一、第四十六、第四十九、第五十八、第七十四、第八十四、第百廿、第百廿五、第百三十一、第百四十七、第百五十四、第百五十五、第百三十四、第百七十七、第百七十二、第百三十四、第百四十六など、いづれもこの人のなり。

次いで出てたるをドッドリッヂとす。作をなすにや、苦心をなし、技巧を弄したるあさあり。ワッツ、ウエスレーなどは肩を比ぶる能はざれど、よき歌少からず。「もろびと舉げて迎へまつれ」(さ、五十七)は作中の白眉なり。その他「主エスを知りぬる」(さ、百七十九)、「神にたより」(さ、二百十八)、「めさめよ我がたま」(さ、二百八十)なども佳作なり。この人の歌には、聖書の語のよみ籠まれたるもの極めて多く、教理的なるゆゑや、理屈におちいれり。ワッツ派の女作家にステール女史あり、實に女流讚美歌作者のはじめなり。そのすぐれたる作は「たえぬひかりかきやきつ」(さ、三百五十三)なり。この女史のイエスを心の君と仰げるさま美はし。スコットランドのエルスキンといふ作家も、ワッツの感化をうけしものなり。

今や我らはメソヂストの歌を説かざる可らず。メソヂストはモラビアン派の影響を被りしもの、而してホイットフィールド一派のカルビニストも、當初はメソヂストと運動を共にしたりしなり。メソヂストの中第一流の作家のチャーレス・ウエスレーなるは、いふまでもなし。彼はワッツと共に英國の二大作家なり。兄なるジョン・ウエスレーはドイツの讚美歌、中んづくゲルハルト、シエフレル、テレストゲン、ツンゼンドルフ等の作を譯したれども、いかほどまで原作を出し、や明かならず。弟のチャーレスは群を抜きたる作家にして、その原作に以上のドイツ作家の調をつたふ。チャーレスの歌はワッツ一派のよりも主観的なり、や、教訓的なり、同じ思想を繰りかへすより時にうるさき感なき能はず。いかなる物にあひて



も心の向き方一様なるも、その短所なるべし。されどその感情は切にして深く、歌ふ所正編を得て、調も堂々たり。チャーレンスの作六千首を算せらる。最も優れたるものは疑もなく「わがたましひを愛するエスよ」(さ、二百十七)をなす。(われは「わがたましひのこひ人エスよ」を思ひ切りて譯するを至當と信ず)。この歌のもとの題は、「誘惑にかゝりて」とありき。ウエスレー兄弟が暴徒におはれし頃の作なりといふ。英の讚美歌中ブレデーの「千歳の岩よ」と優劣を争ふ。情の温かきが此の作の長所なり。その他「夜をもる月に今やかはりて」(さ、三)、「エスのみまかえみめぐみ」(さ、廿九)、さては第六十、第一百十一、第一百十二、第一百三十八、第一百四十五、第一百五十七、第一百六十八、第一百六十九、第一百七十八、第一百八十一、第一百八十三、第一百八十七、第一百九十四など、或は喜ばしく、或は勇ましく、或は優しく、あるは生氣あり、あるは誇をみるこまし。第三十六の「よるづものさばにしらす」といふをも、チャーレンスの作とする説あれど、うけがたし。

のちにジョン・ウエスレーと別れし傳道者にマロネットといふあり。「あまつみつかひよ、エスの御名の」(さ、九十五)の大作を以て聞ゆ。モラビアン派のメソヂストにセンニックあり、「みよ雲に乗りて贖主は」(さ、百六)といふ名歌は、彼の作をチャーレンス・ウエスレーが添削したるものと稱へらる。人之を英語の Dies Irae となす。「あまつみや、こに召されてのぼる」(さ、二百五十九)、「のぼりたまひにしエスキみのあそな」(さ、百七十七)またその作なり。カルビン派のメソヂストに音に聞えしブレデーあり。獅子の勇ありて草葉のこころもき體質なりしかや。そのジョン・ウエスレーと激しく争ひしは、人の知る所、作家としての天分きはめて豊かなりき。その「千歳の岩よ」(さ、二百十五)は、グラッドストーン之をラテン語に譯したりき。「なやみま病のなす時も」(さ、三百廿七)またこの人の作なり。歌のはり、はじめの美はしさを缺くこの評あり。病ある人のつれなればにや。ウイリアムスまたカルビン主義

メソヂストの使徒なり。「わが大み神よ、つよき御手もて」(さ、二百廿六)は、その大作なり。時人之をウエスレーのワッツとす。

第一期のをはりを飾るものをニットン、クーパーの二人とす。「オルニー讚美歌」は即ち此二人の力を籠めたるもの、ニットンの雄々しく、クーパーのは優し。ニットンの作、時に乾燥なれど、時に靈海の最高潮に乗す。ニットンに「さかえに満ちたる神の都は」(さ、百三十)あれば、クーパーに「みめぐみあふるソイマエルの」(さ、百八十五)あり。「エスキみの御名は」(さ、二百三十一)、「なやみのあらぬ」(さ、三百六十)、「なぬおのたびち」(さ、十八)、「いざやわがたま」(さ、二百四十四)、「友といふ友は」(さ、二百九十六)などニットンのなり。殊に第三百六十、第二百九十六など奴隸船の水夫たり、船長たり、つひに節を折りて書を読み、熱心なる傳道師となり、變化ある生涯を送りし人の作として見れば、面白し。多病多感幽鬱狂亂の氣味あり三度まで自殺を試みたるクーパーを保護して、讚美歌をもせしめたるは、ニットンの力なり。クーパーの詩には、時に餘りなりと思はるゝ所あり。されどその詩人にさりては實驗のこまばなるなり。「われらもいづみを深く潜り、紅の罪を皆洗はれん」などの句は、その一例なり。クーパーの歌にて最も見事なるは、「神は風に乗り、波をあゆむ」(さ、二百十九)なるべし。「みかみのひかりよ」(さ、二百四十八)は實驗の歌なり。「いづこに御民の」(さ、廿八)は、オルニーの祈禱會場を廣き處に移したるをりの吟なり。

#### 第二期(千七百八十年—千八百五十年)

第一期より第二期に入るは、一の新世界に入るが如し。新教は樹立せられたり。英國には前期のこまき大内亂はやあらずなりぬ。佛國革命は一時慘憺たるありさまを呈せしが、それもよき方に静まりぬ。ナポレオンは各地に轉戦せしかども、渾沌たる中より秩序は生じぬ。トラファルガーに、ワートルローに、英



國の海陸の權力は動かす可からずなりぬ。ヴィクトリア朝の文華は開きぬ。千七百九十年代より傳道會社は、相ついで起りぬ。千八百年には米國に大リバイバルありき。キリスト教の愛といふ文字は、一種の新意義を生きたれり。而して奴隸買賣は千八百七年に、奴隸制度は千八百三十三年に廢せられたり。傳道的、福音的なる第二期の歌は、かくして世に出たり。さなり、この時までは、別に傳道の爲の歌といふもの無かりしなり。たゞこの機運を觀たるもの前期のをはりに浸禮派の教師ベトナムありしのみ。

この期のはじめにいでたる有数の作家をモントゴメリーとす。第一流の作家といひ難けれど、第二流の上位をしむるものなる事疑ふべからず。その傑作は「ちよの定めし時いたりて」(さ、七十一)なり。「祈は口よりいでぬとも」(さ、二百三十七)は讚美歌といふよりは詩に近しとの評あり。その他「主よ主のみやに」(さ、廿四)、「みそちかけりゆく」(さ、六十一)、「うみゆくとも」(さ、百九十六)、「主よ試み」(さ、二百七十八)、「主よ共ならん」(さ、三百五十二)、「たふさきかな主」(さ、四百三十五)等あり。記者みづからは第九十六を愛す。

ミス、アウバアといふは、英國國教會の信徒なり。女史に「おもひ上れる諸國民も」(さ、百六十三)の作あり、傳道の歌なり。ホークス夫人の作を傳へらる、傳道のうたに「いまこそおほつち主にまつるひぬ」(さ、百五十五)あり。果してさる人ありしや、はた誰人の雅號なりしや明かならず。マリオットといふ英國國教會の教師にも「さよの闇をば」(さ、百六十)といふ傳道のうたあり。

我らはヒーパーアにおいてまた第一流の作家をみる。傳道の歌として凡を超えたるは「きたのはてなる氷の山」(さ、百五十三)なり。莊嚴なるは「聖なる聖なる聖なるかな」(さ、三十五)なり。その他「くしき星よ」(さ、七十二)、「世のためさ、れにし」(さ、百三十九)、「あくまの國を」(さ、二百七十六)などあり。「あゝゆきぬ」(さ、三百三十七)は作者が子を失ひしをりの作きて痛ましく、「かすみのたなびく」

(さ、四百廿四)は優し。

ヒーパーアを時を同うしたる米國の作家に、ヘスチングスあり、「あなうるはしシオンの朝」(さ、百六十一)をもて知らる。これも傳道的なり。ニューヨークのフイベ・ブラオンまた同時代の人なり。ペンキ屋の妻なりし此の人の歌に「わづらはしき世をしはしのむれ」(さ、二百四十二)の佳作あり。貧家の世話女房が富家の夫人に恥かしめられしをりの歌なり。「たそがれのそるあるきをさめられて」(さ、いふ詞書なり)。「月の影はうすれゆきて」(さ、二百四十)また誦すべし。

政事の大氣の中に人となりたるロバート・グラントは、ケンブリッヂの出身にしてボンベイの知事なりしが、作家として第一流に位す。「あめつちの御神をばほめまつれ人の子よ」(さ、五十一)といふは壯大なり。「われは塵の中にひれふし」(さ、二百六)もまた大作なり。詩人カーク・ホワイも聖歌をもつてその名を得たる作を「みそらにきらめく千よろづの星は」(さ、六十八)とす。「みかみはちからのきみにませば」(さ、四十一)また見事なり。たゞこの人の吟は、ひさり味むにふるしく、衆と共に歌ふに可ならずとの難あり。ミス、エリオットといふは英語をもつてのせる讚美歌の婦人作家として隨一の名あり。「いさをなき我を血をもて贖ひ」(さ、二百十一)は、作者自身の悔改の吟きて、感興旺なり。リバイバル風の歌として其後かゝる歌續出したれども、之を凌ぐは少あるべし。「花のあげほの」(さ、二百三十九)、「うつりゆく世にも」(さ、二百九十五)などの作存す。

千八百廿七年キープル『クリスチアン イヤア』を公けにしたり。この書は教會の年中行事を歌へるものながら、幾多の見事なる讚美歌は、この中より選ばれぬ。キープルは「小冊子運動」の一領袖たり。自ら醒めて教會を醒さんとしたるこの運動は、めざましかりき。キープル、マント、ニッマンおのがじゝなる歌を残せり。キープルの「くるあさこに」(さ、二)は、『クリスチアン イヤア』中の朝の歌なり。



「わがたまのひかり」(さ、十)は、同書の夕の歌なり。「いもせの道を」(さ、三百八十二)またその作使の我を迎ふさいふ思想に、難を入るゝ人あれども、そは窮風なる見解ならん。

第二期の作家中の第一と稱せらるゝは、ライトなり。その傑作「エスよ十字架を御手より受けて」(さ、二百六十二)は自己の経験を歌ひしもの、道を他人に傳へつゝ實は眞の道を知らざりしに、朋友の末期に會して豁然主を認めたりしをりの作なり。「日暮れて四方はくらく」(さ、九)は、健康すぐれずなりし牧師が會衆と最後の聖餐を共にしたるをりの吟なり。ユニテリアン教徒にはアダムス女史あり。「主よみもさに近かん」(さ、二百四十九)の作者なり。この歌の替歌夥しきにも、本歌のもてはやさるゝさまを思ふべし。

米國の監督ドーネも作家たり。「ひかげしづかに」(さ、十三)、「つみのひさやより」(さ、百七十二)などの味あり。されど米國讚美歌界の二大家は、バルマアとスミスなり。「まごころもて仰ぎまつらん」(さ、二百十三)は作者が二十二歳のをりの作ながら、病にせめられし事とて、情いと切なり。スミスは米國々歌の作者にしてまた讚美歌作者たり。バルマアは沈思す、スミスは實行すといふ趣あり。近代に於て、衆望をあつめたる作家をホーナアとす。「つみの重荷をエスキみに」(さ、二百十二)など、なやめる者のさまを畫き出してめでたし。「つかれたるものよ我に來り」(さ、百七十五)は、樂にあはして引立つ歌なり。その他第二百一、第二百八十六、第三百三十、第四百四十七など和譯あり。アルフォードは第二期の殿軍なり。「ゆきしもまげき」(さ、三百七十八)といふ作をさめたり。

第三期 (千八百五十年以後)  
世界のいよく狭くなりたるこの期は、ある意味において讚美歌の衰退期なり。これあるものを捉へん

さして未だ捉へ得ざるにやあらん。過去の想と型とにては何さやら物足らず、さればさて新調いまだ整はぬに似たり。されば讚美歌界にはドイツその他の古歌の翻譯さかんに行はる、新きを知らんきて故きを温ぬるなり。大體の調は空理を説かずして實驗を重ね、切實に神に對せん。この期にいたりては婦人作家のいづる事實に夥しく、ホルスウィック、フェンドラタア、ウインクウォースの三女史は、ドイツの作を紹介するを以て任させり。その他ワリーング、アレキサンダー、ハバアガル等みな婦人作家たり。アレキサンダー夫人の「みやこの外なる」(さ、百七十三)、「世の浪さわけ」(さ、二百六十六)等あり。ハバアガルは恐らく近代婦人作家の隨一なるべし。「作は祈禱なり」さいへる此人の言は、歌にもよく現はれたり。女史 Ecco Homo の畫を見て、「此身を君にさづけまつる」といひし以來、心狀一轉、己を空しうして主に仕へたり。「きみなるエスよ」(さ、二百六十三)、「わがきみエスよ」(さ、二百八十九)など、この婦人の想をうかばはしむ。女史にさりてはイエスは決して千餘年の前にありし人物にあらず、彼方にて必ず會ふべき君なりしなり。世人女史を評して十九世紀のセオドシアといふ。

男子の作家にてはフェーバア最も名高し。たゞし批評は紛々たり。「かみのめぐみの」(さ、五十五)はそれを代表するに足る作なり。「みつひのたへ歌は」(さ、三百四十)また愛吟せらる。カスウオルとニールとの二人は、گریキ及びラテンの歌の譯者として聞ゆ。監督ハウの作また重んずべし。「閉せる門を主はたきて」(さ、百八十七)など人を動かす。「あめよりくだり」(さ、百廿八)、「わがさへぐる」(さ、百四十九)またよし。

ムーデー、サンキー一派の福音唱歌は、別に一派をなす。そが女作家フランニー・クロスビーの如きは、一人にして既に数千首の作あり。福音唱歌の米、英兩國を動かしたるは、驚くばかりなり。されど調卑ければその歌さ曲さは、リバイバルの集會、青年の會合その他に限られて、いまだ教會の禮拜に用ぬら



るゝにいたらず。之を以て讃美歌にも音楽にもあらず、歌の説教なりといふ論客すらなきにあらず。何せよ、この地の教會にて The Hymnal を稱するものには、まづ此の種の歌を見る事まれなり。尤もプレスビテリアンの讃美歌には、この種の曲一二首を収め、更にのちに出版したる南北美以教會の歌集には、タロスピーの作五首、サンキーの曲一を収めたり。

### 六 日本の讃美歌

支那は東洋にありて傳道の門戸古くより開けたる所なれば、讃歌もまた早く入りしなるべし。記者が坐右にせるは「公讃詩」さて二百七十五首をふくむ。翻譯佳なりき雖も、原作の如何は知り難し。ヒリビンの如きは米國がかの土を得てのちに日本にてその讃美歌集を印刷したるなり。日本の讃美歌にて、記者が用ゐたるは、一致教會の「讃美歌」よりなり。「我、母のふきころをなされなして」云々といふは奥野翁の歌なりしが、愛誦したりき記憶す。「基督教聖歌集」は元氣はよかりしが蕪雜なる書なりき。明治廿三年の「新撰讃美歌」にいたりて斯界は一新したり。奥野翁の歌の熱ある、松山高吉翁の言語に富む、植村正久先生の趣味をあげて、貢獻する所多かりしならん。降りて明治廿六年にいたり「さんびが」あらはる。新教の各派は爾來同一の歌集を用ゐる事となれり。而してこの集は The Hymnal といはんには、あまり多く福音唱歌をふくめるがごとし。これ國情の相違にもよるならん。而してまことの日本の讃美歌時代は、今後にあるべし、想に於ても、調に於ても、しからざるを得ざるなり。

参考書類 一卷にて備はれるを求めんには Julian's Dictionary of Hymnology 宜しむべし。細字大冊、代金拾圓以上。Duffield's English Hymns も可なり、英語に譯しある詩は、ギリシヤの昔より獨佛の近代まで包含す。Breed's The History and Use of Hymns and Hymn-tunes は組織たまたる良書

なり、前の數者はやゝ目的を異にす。「評論の評論」の記者ステッドの編輯せる Hymns that have Helped 小冊子ながら面白し。福音唱歌の事なせるものには、Sankey's My Life and Sacred Songs あり、傳道用によし。此の種の書少かられど、このには記者が親しく用ゐたる中にて最も可なりき信する者を掲ぐ。なほ大英百科全書中の「讃美歌史」は堂々たる文なり、本文之をブリードの著者に貢ふ所多し。



大正六年七月九日發行

(定價壹圓八拾錢)

著作者

デー・エム・マクネア

發行者

福永文之助

印刷者

村岡平吉

東京都大田町五丁目八十七番地

不許複製製

東京市京橋區尾張町二丁目

發行所

蒼醒社書店

(電話東京五五三  
新橋一五八七)







■ フレノ人の教育

ハウ女史譯

定價一圓五十錢  
郵稅十二錢

■ ゆきびら

ブラウン

(譜無)  
定價五十錢  
郵稅無

■ 久堅町より

安井哲子著

定價十一錢  
郵稅圓

■ 聖歌新曲

淺田泰順

定價金二十四錢  
郵稅無

■ 夕ばえ

野口精子著

定價六十七錢  
郵稅無

■ 讚美歌各種

目錄贈呈



21130

FAMILIAR HYMNS:  
THEIR AUTHORS AND COMPOSERS

By  
REV. THEODORE M. MACNAIR, M.A.

WITH A PREFACE BY  
REV. HIROMICHI KOZAKI  
AND  
AN INTRODUCTION AND  
AN APPENDIX BY  
REV. UMENOSUKE BESSHO

KEISEISHA  
TOKYO  
1917

5/



## INDEX OF FIRST LINES

	PAGE
A charge to keep I have ... ..	120
A few more years shall roll ... ..	174
A mighty Fortress is our God ... ..	47
Abide with me: fast falls the eventide ... ..	7
All hail the power of Jesus' Name ... ..	162
All my heart this night rejoices ... ..	324
Angels from the realms of glory... ..	190
Art thou weary, art thou languid ... ..	234
As with gladness men of old ... ..	410
Awake, my soul, and with the sun ... ..	274
Awake, my soul, stretch every nerve... ..	204
Blessed assurance, Jesus is mine ... ..	134
Blest be the tie that binds ... ..	502
Blow ye the trumpet, blow ... ..	120
Brief life is here our portion ... ..	246
Brightest and best of the sons of the morning... ..	90
By Christ redeemed, in Christ restored ... ..	417
By cool Siloam's shady rill... ..	90
Cast thy bread upon the waters ... ..	441
Christ is made the sure Foundation ... ..	234
Christ to Heaven is gone before ... ..	417
Christ, Whose glory fills the skies ... ..	118
Christian, dost thou see them ... ..	243
Come, Holy Spirit, Heavenly Dove ... ..	99
Come, Thou Fount of every blessing... ..	502
Come unto Me, ye weary ... ..	410
Come ye disconsolate ... ..	371
Come, ye thankful people, come ... ..	472
Crown Him with many crowns ... ..	418



	PAGE
Day by day we magnify Thee ... ..	295
Day is dying in the west ... ..	441
Dear Lord and Father of mankind ... ..	407
Do no sinful action ... ..	253
Each little flower that opens ... ..	253
Eternal Father, Thou hast said ... ..	18
Every morn the golden sun ... ..	253
Far from these scenes of night ... ..	72
Father, whate'er of earthly bliss... ..	70
Fight the good fight with all thy might ... ..	472
For all the saints who from their labors rest ... ..	264
Forever with the Lord... ..	191
Forward ! be our watchword ... ..	472
Friend after friend departs ... ..	191
From Greenland's icy mountains ... ..	84
Glorious things of Thee are spoken ... ..	146
Glory and praise and honor... ..	234
Glory to Thee, my God, this night ... ..	274
God be with you till we meet again ... ..	503
God is love : His mercy brightens ... ..	311
God is the Refuge of His saints ... ..	99
God moves in a mysterious way... ..	146
Great God, we sing Thy mighty hand ... ..	210
Grandeur than ocean's story ... ..	271
Hail to the brightness of Zion's glad morning... ..	385
Hail to the Lord's Anointed ... ..	185
Hark ! hark ! my soul, angelic songs are swelling ... ..	237
Hark ! ten thousand harps and voices ... ..	489
Hark, the glad sound ! the Savior comes ... ..	204
Hark ! the herald angels sing ... ..	119
Hark ! the sound of holy voices... ..	216
He leadeth me, O blessed thought ... ..	502

	PAGE
Holy, Holy, Holy, Lord God Almighty ... ..	90
Holy, Holy, Holy, Lord God of Hosts ... ..	192
How firm a foundation, ye saints of the Lord ... ..	341
How gentle God's commands ... ..	210
How pleasing is Thy voice ... ..	202
How precious is the Book Divine ... ..	502
How sweet the melting lay ... ..	349
How sweet the Name of Jesus sounds ... ..	147
Hushed was the evening hymn ... ..	499
I am so glad that our Father in heaven ... ..	225
I do not ask, O Lord, that life may be ... ..	441
I gave my life for thee... ..	80
I heard the Voice of Jesus say ... ..	174
I lay my sins on Jesus ... ..	174
I love Thy Kingdom, Lord... ..	195
I love to steal awhile away ... ..	349
I love to tell the story ... ..	458
I need Thee every hour ... ..	458
I think when I read that sweet story of old ... ..	459
I will sing you a song of that beautiful land ... ..	431
I would love Thee, God and Father ... ..	172
I would not live alway ... ..	403
If you cannot on the ocean ... ..	431
In the Cross of Christ I glory ... ..	311
In the hour of trial ... ..	191
It is not death to die ... ..	162
Jerusalem the golden ... ..	245
Jesus calls us o'er the tumult ... ..	254
Jesus I my cross have taken ... ..	7
Jesus, keep me near the Cross ... ..	134
Jesus, Lover of my soul ... ..	113
Jesus loves me, this I know ... ..	458
Jesus shall reign where'er the sun ... ..	99



	PAGE
Jesus, Thy boundless love to me ... ..	324
Jesus, Thou joy of loving hearts ... ..	19
Jesus, where'er Thy people meet ... ..	147
Jesus, while our hearts are bleeding ... ..	365
Joy to the world! the Lord is come ... ..	99
Just as I am, without one plea ... ..	137
Lamp of our feet, whereby we trace ... ..	398
Lead kindly Light, amid the encircling gloom ... ..	23
Lift up, O little children ... ..	441
Like a river glorious ... ..	70
Lo, He comes, with clouds descending ... ..	119
Lord, dismiss us with Thy blessing ... ..	502
Lord, I hear of showers of blessing ... ..	442
Lord Jesus, I long to be perfectly whole ... ..	503
Lord of Hosts, to Thee we raise ... ..	191
Lord, speak to me that I may speak ... ..	70
Lord, this day Thy children meet ... ..	270
Lord, Thy children guide and keep ... ..	270
Love Divine, all loves excelling ... ..	120
More holiness give me ... ..	225
More love to Thee, O Christ ... ..	459
My days are gliding swiftly by ... ..	503
My faith looks up to Thee ... ..	14
My God and Father while I stray ... ..	142
My God, is any hour so sweet ... ..	141
My God, I thank Thee, who hast made ... ..	441
My life flows on in endless song... ..	461
Nearer, my God, to Thee ... ..	52, 63
New every morning is the love ... ..	34
Not worthy, Lord, to gather up the crumbs ... ..	304
Now thank we all our God ... ..	335
Now the day is over ... ..	62

	PAGE
O day of rest and gladness ... ..	216
O for a closer walk with God ... ..	147
O for a heart to praise my God ... ..	120
O for a thousand tongues to sing ... ..	118
O God of Bethel, by Whose hand ... ..	210
O God, our Help in ages past ... ..	100
O God, the Rock of ages ... ..	304
Oh happy day that fixed my choice ... ..	210
O Holy Savior, Friend unseen ... ..	142
O Jesus, God and Man... ..	473
O Jesus, Thou art standing ... ..	264
O little town of Bethlehem ... ..	317
O Lord of Hosts, Whose glory fills ... ..	234
O Lord of heaven and earth and sea ... ..	222
O Love Divine and tender ... ..	472
O Love that will not let me go ... ..	490
O Sacred Head now wounded ... ..	324
O Spirit of the living God ... ..	191
O Thou, before Whose Presence ... ..	356
O Word of God Incarnate ... ..	264
O where shall rest be found ... ..	191
O worship the King all glorious above ... ..	417
Oft in danger, oft in woe ... ..	389
Once in royal David's city ... ..	253
One more day's work for Jesus ... ..	458
One sweetly solemn thought ... ..	431
One there is, above all others ... ..	147
Onward, Christian soldiers ... ..	55
Our day of praise is done ... ..	295
Peace, perfect peace, in this dark world of sin... ..	304
Prayer is the soul's sincere desire ... ..	185
Rescue the perishing, care for the dying ... ..	128
Rock of Ages, cleft for me ... ..	106



	PAGE
Savior, again to Thy dear Name we raise...	295
Savior, breathe an evening blessing ...	502
Savior, when in dust to Thee ...	417
See Israel's gentle shepherd stand ...	210
See, the Conqueror mounts in triumph ...	216
Since Jesus is my Friend ...	324
Sing them over again to me... ..	225
Sing to the Lord of Harvest ...	472
Softly now the light of day... ..	274
Some day the silver cord will break ...	133
Sound the battle cry ... ..	271
Stand up, stand up for Jesus ... ..	1
Standing at the portal ... ..	70
Still, still with Thee, my God ... ..	489
Son of my soul, Thou Savior dear ... ..	34
Sweet hour of prayer, sweet hour of prayer ...	490
Sweet Savior, bless us e'er we go ... ..	234
Sweetest Fount of holy gladness... ..	324
Take my life and let it be ... ..	70
The Church's one Foundation ... ..	356
The day is past and over ... ..	243
The day Thou gavest, Lord, is ended ... ..	295
The King of Love my Shepherd is ... ..	473
The Lord our God is clothed with might... ..	389
The morning light is breaking ... ..	373
The sands of time are sinking ... ..	442
The shadows of the evening hours ... ..	441
The Son of God goes forth to war ... ..	90
The spacious firmament on high... ..	290
The Voice that breathed o'er Eden ... ..	43
The world looks very beautiful ... ..	458
There came a little Child to earth ... ..	138
There is a fountain filled with blood... ..	155

	PAGE
There is a green hill far away ... ..	253
There is a happy land ... ..	364
There is a land of pure delight ... ..	100
There's a Friend for little children ... ..	417
There's a land that is fairer than day ... ..	503
There's a wideness in God's mercy ... ..	234
Thine are all the gifts, O God ... ..	398
This is the day of light... ..	295
This stone to Thee in faith we lay ... ..	191
Thou art the Way, to Thee alone ... ..	284
Thou didst leave Thy throne ... ..	138
Thy way, not mine, O Lord... ..	174
To-day the Savior calls... ..	373
To Thy Cross, dear Christ, I'm clinging ... ..	459
To Thy temple I repair ... ..	190
Walk in the light, so shalt thou know ... ..	398
Watchman, tell us of the night ... ..	311
We are but little children weak ... ..	253
We give Thee but Thine own ... ..	268
We may not climb the Heavenly steeps ... ..	398
We plough the fields, and scatter ... ..	473
Weeping will not save me ... ..	460
Welcome, happy morning, age to age, shall say ... ..	295
What a Friend we have in Jesus ... ..	489
When all thy mercies, O my God ... ..	290
When I survey the wondrous Cross ... ..	93
When marshaled on the nightly plain ... ..	389
When our heads are bowed with woe ... ..	381
Work, for the night is coming ... ..	459
Zion stands with hills surrounded ... ..	489



## INDEX OF AUTHORS

	PAGE		PAGE
Adams ... ..	65	Ellerton ... ..	297
Addison ... ..	290	Elliott ... ..	138
Alexander ... ..	254	Faber ... ..	235
Alford ... ..	473	Fawcett ... ..	509
Andrew St. of Crete ... ..	243	Fortunatus ... ..	303
Baker ... ..	483	Gates ... ..	438
Baring-Gould ... ..	56	Gerhardt ... ..	325
Barton ... ..	398	Gilmore... ..	522
Bennett ... ..	520	Grant ... ..	418
Bernard... ..	245, 363	Guyon ... ..	162, 172
Bickersteth ... ..	304	Hanaford ... ..	442
Bliss ... ..	225	Hankey... ..	464
Bonar ... ..	174	Harris ... ..	468
Bowring ... ..	312	Hastings ... ..	112, 365
Bridges ... ..	428	Havergal ... ..	71, 322
Brooks ... ..	73, 317	Hawks ... ..	461
Brown ... ..	350	Heber ... ..	84
Burns ... ..	494	How ... ..	265
Cary ... ..	431	Keble ... ..	34
Claudius ... ..	481	Keene ... ..	345
Codner ... ..	452	Kelly ... ..	490
Coghill ... ..	464	Ken ... ..	277
Cousin ... ..	454	Lathbury ... ..	442
Cowper ... ..	146	Luke ... ..	469
Dix ... ..	410	Luther ... ..	47
Doane G. W. ... ..	284	Lyte ... ..	7
Doddridge ... ..	204	Malan ... ..	162
Duffield ... ..	2	Matheson ... ..	499
Dwight ... ..	195	Midlane... ..	426
Edmeston ... ..	514	Milman ... ..	38 <sup>2</sup>

	PAGE		PAGE
Monsell ... ..	478	Scriven ... ..	496
Montgomery ... ..	185	Smith ... ..	374
Moore ... ..	372	Steele ... ..	71
Muhlenburg ... ..	403	Stone ... ..	358
Neale ... ..	235	Theodulph ... ..	248
Nelson ... ..	518	Toplady ... ..	106
Newman ... ..	23	Van Alstyne ... ..	128
Newton ... ..	146	Walford ... ..	499
Nicholson ... ..	517	Warner ... ..	459
Palmer ... ..	14	Watts ... ..	93
Perronet ... ..	162	Wesley C. ... ..	111, 113
Prentiss... ..	467	Wesley J. ... ..	331
Procter ... ..	447	White ... ..	389
Rankin ... ..	523	Whittier ... ..	398
Rawson ... ..	421	Whittle... ..	462
Rinkart ... ..	336	Winkworth ... ..	329, 335
Robinson ... ..	504	Wordsworth... ..	216



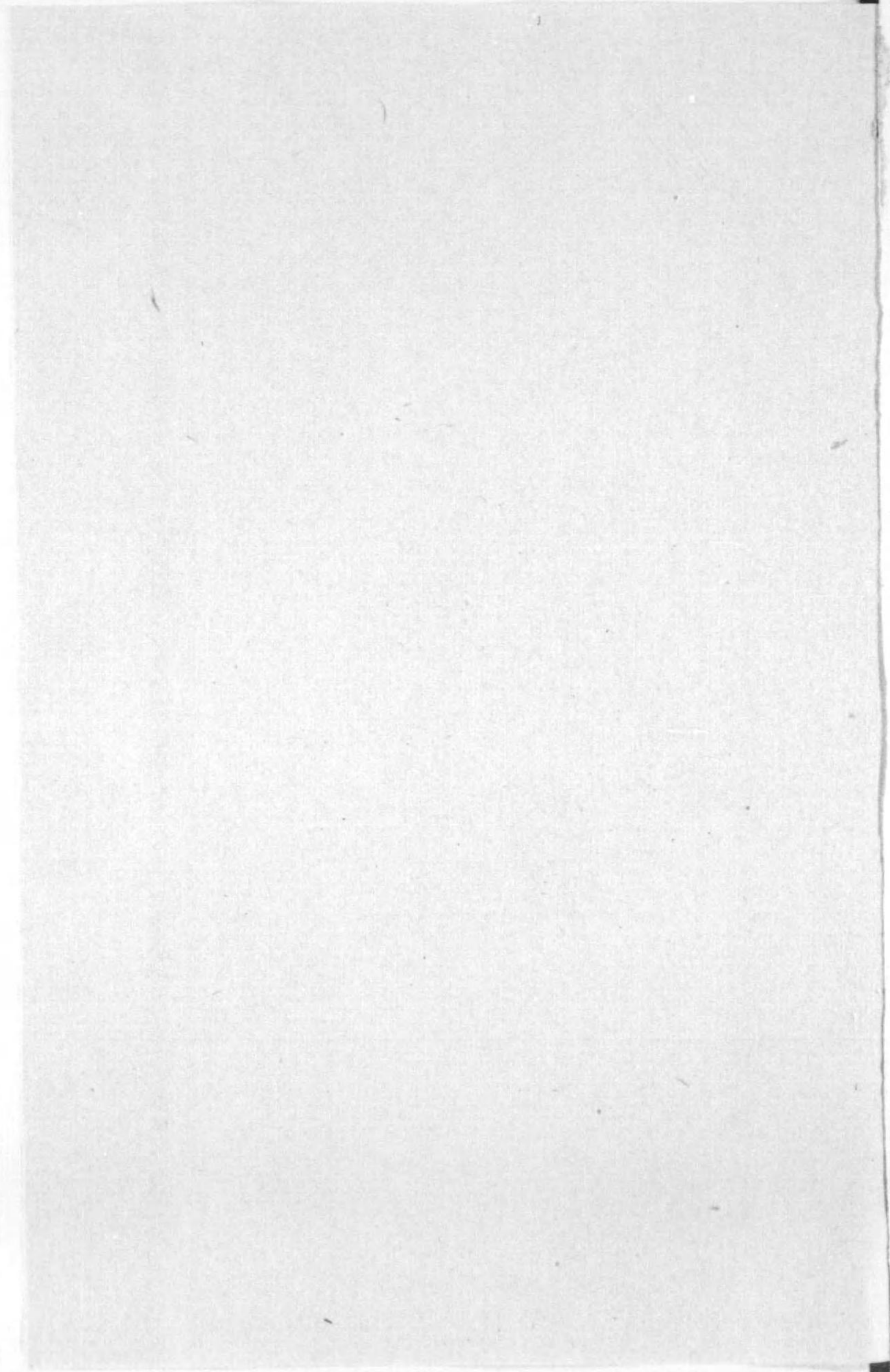
INDEX OF COMPOSERS

	PAGE		PAGE
Abbey ... ..	355	Ewing ... ..	248
Abt... ..	124	Fischer ... ..	465, 518
Adcock ... ..	263	Flemming ... ..	144
Albert, H. ... ..	302	Gauntlett ... ..	261
Albert, Prince ... ..	222	Gottschalk ... ..	424
Baker ... ..	251, 483	Gould ... ..	465
Barnby ... ..	30, 272	Grannis ... ..	438
Barthelemon... ..	160	Handel ... ..	6, 211
Beethoven ... ..	192	Haydn ... ..	6, 156
Bliss ... ..	81, 225	Hayne ... ..	183
Blumenthal ... ..	421	Hemy ... ..	215
Bortniansky ... ..	516	Hiles ... ..	451
Bourgeois ... ..	288	Holden ... ..	167
Boyd ... ..	480	Hopkins ... ..	300
Bradbury ... ..	143	Husband ... ..	183
Caldbeck ... ..	310	Hutton ... ..	262
Calcott ... ..	179	Ingalls ... ..	511
Carter ... ..	302	Johnson ... ..	249
Cherubini ... ..	192	Kingsley ... ..	402
Cole ... ..	293	Knapp ... ..	250
Conkey ... ..	315	Knecht ... ..	183, 270
Converse ... ..	498	Kocher ... ..	45, 415
Croft ... ..	103	Langran ... ..	309
Crüger ... ..	338	Lowry ... ..	460
Cutler ... ..	90	Maker ... ..	329, 463
Davenant ... ..	470	Mann ... ..	83
Doane W. H. ... ..	134	Marsh ... ..	124
Dykes ... ..	30, 92, 123	Mason ... ..	5, 19, 65, 89
Ebeling ... ..	496	Matthews ... ..	145
Elvey ... ..	142, 429	Mendelssohn ... ..	125, 269

INDEX OF COMPOSERS

	PAGE		PAGE
Monk ... ..	12, 238	Stebbins... ..	262
Mountain ... ..	82	Sullivan... ..	58, 478
Mozart ... ..	13	Sweetser ... ..	172
Nägeli ... ..	75, 511	Tallis ... ..	286
Peace ... ..	500	Teschner ... ..	249
Perkins ... ..	480	Thorne ... ..	262
Phillips ... ..	228, 436	Tomer ... ..	523
Redhead ... ..	102, 224, 388	Tye ... ..	160
Redner ... ..	321	Tyng ... ..	2, 300
Rimbault ... ..	214, 512	Urhan ... ..	456
Root ... ..	104, 519	Wallace... ..	408
Rousseau ... ..	510	Walton ... ..	145
Sankey ... ..	135, 228	Watson ... ..	510
Scholefield ... ..	301	Webb, G. ... ..	5
Schulz ... ..	482	Webbe, S. ... ..	46, 285
Schumann ... ..	487	Weber ... ..	182
Seward ... ..	445	Webster... ..	520
Sherwin... ..	271	Wesley S. S. ... ..	362
Shrubsole ... ..	166	Willing... ..	262
Smart ... ..	223	Woodbury ... ..	90, 372
Spohr ... ..	181	Woodman ... ..	202
Stainer ... ..	61, 259	Wyeth ... ..	506
Stanley ... ..	403	Zundel ... ..	203







終

